

厚木基地騒音対策協議会の要請について

■ 要請項目

厚木基地における米空母艦載機の夜間連続離着陸訓練による航空機騒音の解消等について

- (1) 空母艦載機着陸訓練を硫黄島で全面実施すること
- (2) 恒常的訓練施設を確保すること
- (3) 厚木基地の運用、騒音状況等についての情報提供を行うこと

■ 要請先

内閣総理大臣	安倍 晋三
財務大臣	麻生 太郎
外務大臣	河野 太郎
防衛大臣	岩屋 毅
駐日米国大使	ウィリアム・F・ハガティ
在日米軍司令官	ジェリー・P・マルティネス中将
第7艦隊司令官	フィリップ・G・ソーヤー中将
在日米海軍司令官	グレゴリー・J・フェントン少将
厚木航空施設司令官	ロイド・B・マック大佐
第5空母航空団司令官	フォレスト・O・ヤング大佐

■ 要請結果概要

協議会会員等が、外務省、防衛省、及び駐日米国大使館で要請活動を実施
(他は郵送等)

外務省 (佐藤正久副大臣)	<ul style="list-style-type: none">○要望については大臣にしっかり伝える。○恒常的訓練施設については、馬毛島を候補地として選定し、今後、交渉をさらに加速化させていく。○恒常的訓練施設ができるまでは、着陸訓練は硫黄島で実施するよう、これまでも米側に伝えており、今後も強く求めていく。○関係自治体への情報提供は重要であり、今後も米側に求めていく。○厚木基地内での窓落下事故や、洋上でのヘリの事故については重く受け止めている。航空機については安全を最優先にした運用を行うよう今後も米軍に伝えていく。
------------------	--

<p>防衛省 (原田けんじ副大臣)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○着陸訓練について、機会あるごとに米側に対し、できる限り多くの訓練を硫黄島で行うよう、求めており、今後も求めていく。 ○馬毛島を候補地として選定し取り組んでいる。恒常的訓練施設の確保は安全保障上の重要な課題と考えており、早期に対応する。情報提供についても適時適切に対応していく。 ○空母艦載機部隊の移駐が3月に全て完了した。運用について、米側から、固定翼機は、通常岩国基地を拠点とするが、給油や訓練等の運用上の所要により厚木基地を利用することもありえるとの情報を得ている。今後も情報が米側から得られれば速やかに関係自治体に伝える。 ○平成29年と平成30年の4月・5月の騒音状況を比較し、騒音は相当程度軽減していると確認した。今後も把握と分析に努める。結果は必要に応じて関係自治体に説明する。 ○住宅防音工事については、今後も所要の予算を確保し、可能な限り早期の実施に努めていく。
<p>駐日米国大使館 (ジョセフ・M・ヤング首席公使)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○米軍の駐留は日本の安全保障、平和、地域の安定に貢献しており、地元自治体のサポートに感謝している。 ○駐留に特有の課題については理解しており、米軍人がよき隣人として振る舞うよう心掛けるとともに、課題を真剣に捉え、地元への影響を最小限にしていきたい。 ○恒常的訓練施設の整備については、進展させることの重要性を理解しており、日本政府に対して働きかけている。